

平成24年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2012 - E - 01

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: _____

英文: International Workshop on New Approaches to the Oceanic Mantle

4. 研究代表者所属・氏名 末次大輔

(地震研究所担当教員名) 独立行政法人 海洋研究開発機構

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
末次大輔	海洋研究開発機構・プログラ ムディレクター	代表者	2013年3月4・5 日	2	無
Forsyth, DW	Brown Univ・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Gaherty, JB	Lamont・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Singh, S.	IPGP・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Evans, R	WHOI・主任研究員	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Tarits, P	Univ. Brest・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	無
Ekstrom, G.	Lamont・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Hirschmann, M.	U. Minnesota・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Mainprice, D	U. Montpellier・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	有
Becker, T	USC・教授	参加	2013年3月4・5 日	2	無

道林克禎	静岡大・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
吉澤和範	北大・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
加藤 護	京大・助教	参加	2013年3月4・5日	2	無
Song, T.R.	IFREE/JAMSTEC・研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無
大林政行	IFREE/JAMSTEC・研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無
志藤あずさ	IFREE/JAMSTEC・研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無
多田訓子	IFREE/JAMSTEC・研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無
森重 学	JSPS 特別研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無
歌田久司	地震研・教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
川勝 均	地震研・教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
本多 了	地震研・教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
塩原 肇	地震研・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
竹内 希	地震研・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
清水久芳	地震研・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
武井康子	地震研・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
平賀岳彦	地震研・准教授	参加	2013年3月4・5日	2	無
西田 究	地震研・助教	参加	2013年3月4・5日	2	無
馬場聖至	地震研・助教	参加	2013年3月4・5日	2	無
一瀬建日	地震研・助教	参加	2013年3月4・5日	2	無
Zhang, L.L.	地震研・研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無

Schardong, L.	地震研・研究員	参加	2013年3月4・5日	2	無
竹尾明子	地震研・大学院生	参加	2013年3月4・5日	2	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード：ふつうの海洋マントル、地球内部構造、リソスフェア、アセノスフェア

内容

「ふつうの海洋マントル」に関わる未知の問題のうち、今回はリソスフェア・アセノスフェアに焦点を絞って、国内外から関連する最先端の研究を行なっている研究者を集めてワークショップを開催した。3月4・5日の2日間にわたり、1人あたり30分の口頭発表が19件、ポスター発表が10件あり、活発な議論が交わされた。観測・実験・シミュレーションなど、多様なアプローチによる研究が行なわれており、特に地震研とIFREEで行なっている「ふつうの海洋マントル」プロジェクトを含め、諸外国でも大規模海底観測が行なわれつつあり、リソスフェアの異方性やアセノスフェアの流動性に関して決定的なデータがもたらされる可能性が高いことが認識された。また、室内実験も急速な展開を示していることから、数年後に再会すること出席者全員が合意して会議を終了した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

ワークショップ予稿集を添付